

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人
------	----	-----	----	-----	----	-----

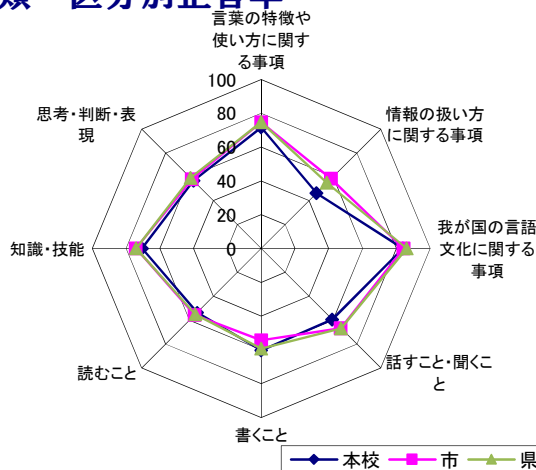
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.6	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	46.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	83.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	59.4	66.7	66.9
	書くこと	60.3	54.3	59.3
	読むこと	53.6	55.6	55.2
観点	知識・技能	70.5	74.1	74.0
	思考・判断・表現	56.7	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

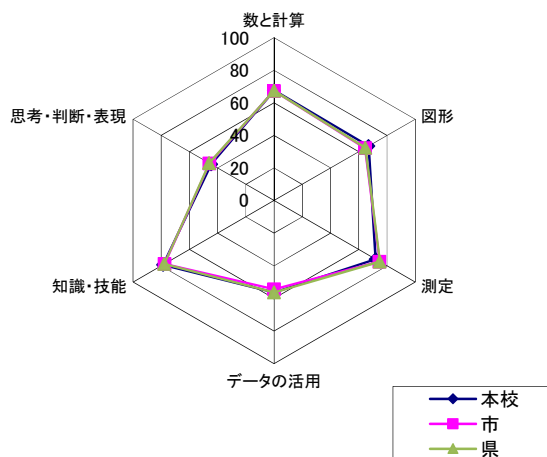
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を3.1ポイント下回った。</p> <p>○主語と述語の組み合わせを選ぶ問題では、市の平均正答率を5.6ポイント上回った。</p> <p>●漢字の読みは、市の平均正答率より0.7～2.2ポイント、書きは3.3～11.5ポイント下回った。</p> <p>●ローマ字を読む問題では、市の平均正答率より8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、文の構成の学習で、主語述語、修飾被修飾の関係を捉えさせ習熟を図る。 ・漢字練習の課題を増やしたり、小テストを定期的実施したりして、読み書きを定着させる。 ・ローマ字の記述の学習や、パソコンへのローマ字入力などの機会を増やし、繰り返し練習させ習熟を図る。
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を1.2ポイント下回った。</p> <p>●例文中の語句の表す意味を選ぶ問題では、市の平均正答率より12ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書と連携し、国語辞典を用いて語句の意味を調べて例文を作ったり、慣用句について調べたりする学習を増やすことによって、語彙力を向上させ、語句の正しい意味を選択する能力の向上を図る。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と同程度であった。</p> <p>●漢字のつくりの「へん」の名称を選ぶ問題では、市の平均正答率より0.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を学習する際、漢字の組み立てや部首の意味などにも着目して覚えていくよう指導する。 ・朝の学習、宿題、自主学習などを活用し、部首についての知識を広げる。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を7.3ポイント下回った。</p> <p>○司会者の話し方の工夫を選択する問題では、市の平均正答率を1.5ポイント上回った。</p> <p>●話の内容に適した説明文を選ぶ問題では、市の平均正答率より15.8ポイント下回った。</p> <p>●話の内容に適した発言となるよう言葉を考える問題では、市の平均正答率より6.8ポイント下回った。</p> <p>●聞き取った意見に対する自分の意見を理由を挙げながら文章にまとめる問題では、市の平均正答率より8.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科や活動で話し合い活動を充実させ、自分の考えを話したり、相手の話を聞いたりする機会を増やす。 ・話し手の伝えたいことや主旨を意識しながら聞く態度を形成する。 ・自分の意見やその理由などを明確に相手に伝えることができるように、スピーチの工夫をさせ実践を図る。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を6ポイント上回った。</p> <p>○こん虫について調べる方法を書く問題では、「6行から8行の間で書く」という注意点を守って書いた正答率が、市の平均正答率よりも13.2ポイント上回っていた。</p> <p>●こん虫について調べる方法を書く問題では、「2つの段落に分けて書くこと」という注意点を守って書いた正答率は、市の平均正答率よりも、1.2ポイント下回っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に説明文や物語文を取り上げる際に、段落が切り替わる時に使われている言葉に着目させ、話の内容が切り替わっていることに気付かせる指導を行っていく。 ・文章を書く時に、内容に合わせて、段落を設けて書かせる指導を行っていく。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を2.0ポイント下回った。</p> <p>○登場人物の気持ちとして適する答えを選択する問題では、市の平均正答率よりも17.7ポイント上回っていた。</p> <p>●段落の内容を捉え、前半と後半に分ける問題では、市の平均正答率よりも、7.1ポイント下回っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書の時間や学校図書館の利用を積極的に行い、多くの本に触れることで、様々な内容の文章を読むことに慣れ、読解力を高められるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.6	67.3	67.4
	図形	66.8	64.5	64.7
	測定	71.9	74.7	74.9
	データの活用	56.3	54.4	56.4
観点	知識・技能	78.7	77.6	77.8
	思考・判断・表現	44.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

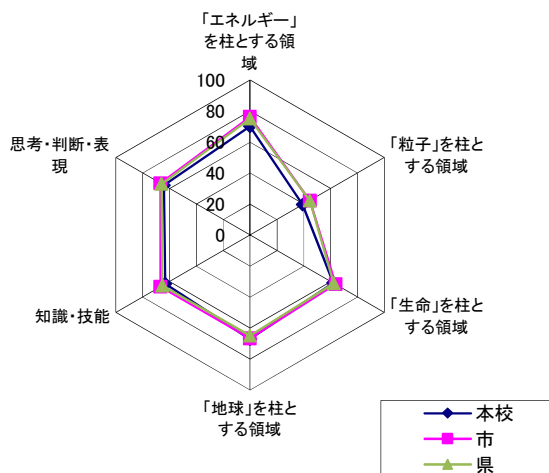
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と同程度であった。</p> <p>○大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、正答率は94.6%であり、市の平均を12.9ポイント上回っていた。</p> <p>○同分母の真分数+真分数=真分数の計算をする問題では、正答率は100%であった。</p> <p>●文章問題を解くために除法の立式をする問題では、市の平均を9.1ポイント下回っていた。</p> <p>●整数-小数第一位の計算をする問題では、市の平均を6.8ポイント下回っており、正答率は42.9%と課題がある。</p>	<p>・長い文章を読み解くことができるよう、長文問題の数をこなし、文章題の情報を整理できるようにする。</p> <p>・整数だけでなく小数や分数の四則計算についても、反復練習をしていくようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>○二等辺三角形を作図する問題では、正答率は、89.3%であり、市の平均を4.6ポイント上回っていた。</p> <p>○円の中心とコンパスの使い方について正しいものを選ぶ問題では、市の平均を8.9ポイント上回っていた。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、市の平均を7.1ポイント下回っており、正答率は、26.8%と課題がある。</p>	<p>・円や球などの図形の定義と性質を繰り返し確認し、それらを使って考える問題に取り組みさせることで、自分の考えを記述し、説明する力を育てていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均を2.8ポイント上回った。</p> <p>○時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率は、85.7%で、市の平均を4.6ポイント上回っていた。</p> <p>●身近な物の重さの単位について、正しくないものを選ぶ問題では、市の平均を14.5ポイント下回っていた。</p>	<p>・身近なものの重さについて、およその見当をつけられるよう、可能な限り実際に体験する活動の機会を設けるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>○2つの棒グラフで1目盛り数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ問題では、正答率は、28.6%であったが、市の平均を8.9ポイント上回っていた。</p> <p>●棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題では、市の平均を5.3ポイント下回っていた。</p>	<p>・フォローアップシートやAIDリルを活用し、いろいろな表やグラフを読み取る問題に取り組みさせ、定着を図るようにする。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.1	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	39.3	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	67.1	66.6	64.9
観点	知識・技能	63.1	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.2	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を6.1ポイント下回った。</p> <p>○送風機を風が強い順に並べ替える問題では、市の平均を1.2ポイント上回った。</p> <p>●鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ問題では、市の平均を13.5ポイント下回った。</p> <p>●糸電話の声の伝わり方を理解しているかどうかを見る問題では、市の平均を7.9ポイント下回った。</p>	<p>・概ね題意をとらえられているが、問われている内容を的確にとらえ思考するまでには至らなかった。学習活動に、伝え合い活動やまとめの学習の時間をとり、考えを自分で整理できるように指導を行う。</p> <p>・短答式の問題が市の平均より下回っているため、ふりかえりの時間などで出来事や自分の考えを書き留める時間を取り、文字で表せるように指導を行う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を5.2ポイント下回った。</p> <p>○形を変えても重さは変わらないこと理解しているかどうかを見る問題では、市の平均と同程度であった。</p> <p>●ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測ができるかどうかを見る問題では、市の平均を10.8ポイント下回り、無回答率も高かった。</p>	<p>・物質がもつ特徴をもとに、考える問題の正答率が低かった。どんな特徴があるかだけでなく、どうしてそうなるのかを考えたり、実際にどんなことに使われているのかを調べたりする活動などに取り組むことで、応用的な課題にも取り組むように指導する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を1.6ポイント下回った。</p> <p>○観察記録として必要な項目を理解しているかどうかを見る問題では、市の平均を5.8ポイント上回った。</p> <p>○草丈の測り方を身に付けているかどうかを見る問題では、市の平均を6.3ポイント上回った。</p> <p>●アゲハが卵をうみつける場所を理解しているかどうかを見る問題では、市の平均を15.1ポイント下回った。</p>	<p>・観察記録の取り方や測り方などは正答率が高かった。しかし昆虫の成長に関する問題が市の平均よりも低かった。これからは観察記録の技能を生かして、校内の自然に触れさせ、昆虫の飼育の観察記録などを取ることで、生命を身近な存在に感じられるようにし、発展的な問題にも対応できるように指導する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を0.5ポイント上回った。</p> <p>○温度計の使い方を身に付けているかどうかを見る問題では、市の平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>○実験の記録から、影の動く様子を推測できるかどうかを見る問題では、市の平均を1.5ポイント上回った。</p> <p>●太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかを見る問題では、市の平均を2.8ポイント下回った。</p>	<p>・温度計を使った実験やかげの動きなどは正答率が高かったが、短答式の問題では回答率が低かったので、AIドリル等を活用し、繰り返し問題に取り組ませ知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問の肯定的回答割合は85.7%で、市の平均を3ポイント上回っていた。「勉強をしていて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」や「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という質問も市の平均を上回った。この結果から、課題を解決しようとする興味をもって学習する楽しさを感じている児童が多いと言える。今後も、この意欲を大切にしながら、楽しさを感じられる学習指導に取り組むたい。

○●家庭学習に関しては、「宿題をしている」という質問の肯定的回答割合は92.9%、「宿題は自分のためになっている」は89.2%で、9割程度の児童が、自分のために真面目に宿題をする習慣が身に付いていると言える。だが、「テストでまちがえた問題について勉強をしている」は51.8%、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は58.9%、家庭学習を「同じ時刻に取り組むようにしている」は53.6%で、ともに市の平均を下回っている。しっかりと宿題に取り組んでいることに対しては大いに称賛し、意欲が継続するようにしていきたい。家庭学習については、取り組む時刻や内容、方法等の改善が必要なので、特に自主学習を中心として、良い例を挙げながら指導していきたい。また、学年だよりや懇談会等によって啓発を行ったり、協力を依頼したりするなど、引き続き、家庭との連携を図りたい。

●平日に、授業時間以外で、読書をする時間は10分以上30分未満が23.2%、2時間以上が8.9%であった。39.3%は全くしないと回答した。1か月に3冊以上本を読むのは62.6%であるが、2冊以下や1冊も読まない児童が4割近くいる。この結果から、多くの児童は家庭で読書をする時間が短く、冊数も少ない傾向であることが分かる。今後も引き続き、読み聞かせボランティアや学校図書館を活用するなど、司書と連携して読書活動を推進していきたい。

●平日のTV・DVD・動画の視聴時間は、2時間～4時間以上が58.9%と6割近くになっている。このうち、25.0%が4時間以上と回答している。また、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型ゲーム、スマートフォンを使ったゲーム)を2時間～4時間以上するのは51.8%であった。平日の多くの時間を費やしていることになる。時間を計画的に使い、睡眠、自主学習、読書の時間を確保できるよう、家庭と連携しながら指導したい。

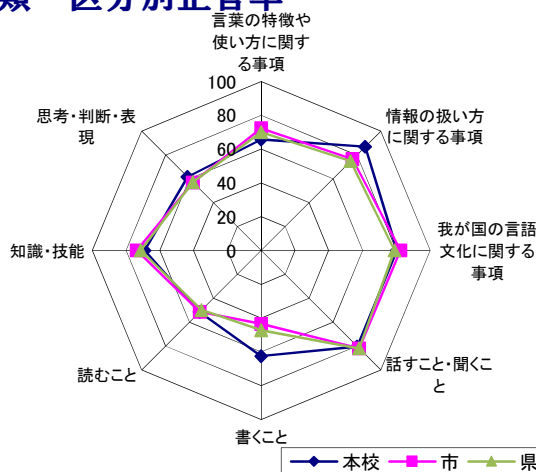
○●授業に関しては、「集中して受けている」という質問の肯定的回答割合は89.3%、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」は94.6%と、非常に良い結果となっている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問の肯定的回答の割合は64.3%で市の平均を10ポイント上回っている。一方、「自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」は71.4%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。この結果から、授業に真剣に取り組む、友達の意見にしっかりと耳を傾け、みんなの前での発表は好む児童が多いが、自分の考えを文章で表現することを苦手とする傾向が見られる。今後は、文章表現の方法を具体的に指導していくとともに、表現の機会を積極的に設けることで、児童が表現することに慣れ、自信をもつことができるよう支援したい。

○「だれに対しても、思いやりの心をもって接している」という質問の肯定的回答割合は94.7%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的割合は89.3%でどちらも市の平均を上回っていた。また、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」は91.1%、「自分は家族の大切な一員だと思う」は94.6%で、どちらも市の平均を上回っていた。これらの結果から、児童は、保護者の温かい支えもあって自分のよさを認識し、学級や友達のために役立てたいと考えている児童が多いことがうかがえる。今後も学習活動や学級経営の仕方を工夫することで、自己肯定感や自己有用感をさらに高めていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.7	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	87.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	80.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	80.4	81.9	82.0
	書くこと	62.5	43.5	47.2
	読むこと	51.6	51.4	49.8
観点	知識・技能	69.0	73.6	71.3
	思考・判断・表現	61.6	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

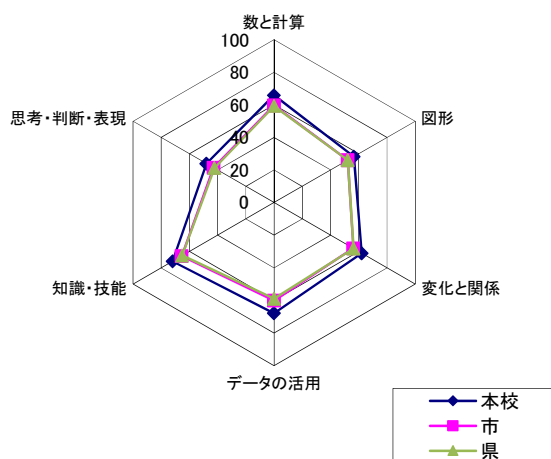
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を6.6ポイント下回った。</p> <p>●漢字を正しく書く問題では、市や県の平均より10.1ポイント以上下回った。</p> <p>○漢字を正しく読む問題では、県の平均より5.5ポイント下回ったものもあるが、2.1ポイント以上回っているものが複数ある。</p> <p>○連体修飾語に関する問題では、市の平均を13.3ポイント上回っている。</p>	<p>・漢字練習やミニテストを継続的に行い、漢字の読みや書きの定着を図れるよう指導する。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を10.6ポイント上回った。</p> <p>○漢字辞典の使い方の理解と活用の問題では、正答率が87.0%で、市の平均より10.6ポイント高い。</p>	<p>・今後もできるだけ漢字辞典を使う機会をつくり、活用方法が身に付くよう、継続して指導する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を2.0ポイント下回った。</p> <p>○ことわざの意味の理解と活用の問題では、正答率が80.4%で、市の平均は下回ったが、県の平均は1.5ポイント上回っている。</p>	<p>・ことわざに関する本を紹介したり、ことわざの意味を調べる活動を設定したりするなど、引き続き、ことわざに触れる機会をつくるよう心掛ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を1.5ポイント下回った。</p> <p>○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題では、市の平均を4.4ポイント上回った。</p> <p>●話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題では、正答率が63%で市の正答率を下回っている。</p>	<p>・先生の話や1分間スピーチだけでなく、各教科等でも5W1Hを意識させて聞くこと、話すことを継続して指導する。</p> <p>・自分の意見を友達に伝えるときに、例を挙げたり、聞き手に問いかけたりしながら話せるように指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を19ポイント上回った。</p> <p>○指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる問題では、正答率が60.9%で、市の正答率を20.1ポイント上回っている。</p>	<p>・授業だけでなく、家庭学習や日記などでも5W1Hや構成(始め・中・終わり)を意識して書くことを継続して指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と同程度であった。</p> <p>○叙述をもとに文章の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が78.3%で、市の正答率を15.1ポイント上回っている。</p>	<p>・言葉の一つひとつ丁寧に読み取り、叙述を基に内容を捉えることができるよう継続して指導する。</p> <p>・朝の学習や宿題等を通して、読解力の定着を図れるようにする。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.9	59.7	59.2
	図形	56.5	52.1	52.1
	変化と関係	62.0	56.1	56.3
	データの活用	67.9	60.1	58.9
観点	知識・技能	72.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	48.0	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

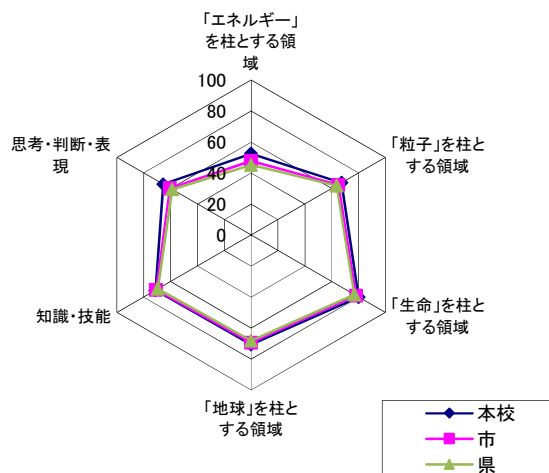
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均より6.2ポイント上回った。</p> <p>○小数の大きさについての問題では、正答率が63%で、県の正答率より18ポイント高く、小数の大きさを正しく理解している。</p> <p>●概数について、代金を見積もる問題では、市や県の平均を上回っているものの、正答率は30.4%と課題がある。</p>	<p>・小数の大きさについては、数直線を用いることで、示された大きさを捉えられるよう、引き続き指導していく。</p> <p>・様々な条件の概数を求める問題に繰り返し取り組みさせるなど、概数の仕組みを正しく理解できるよう指導を工夫していく。</p>
図形	<p>平均正答率は市と県の平均を4.4ポイント上回った。</p> <p>○180度より大きい角の大きさを求める問題では、正答率が63%で、市の平均を9.5ポイント上回っている。</p> <p>●身近なものの面積と単位についての問題では、正答率が21.7%で市の正答率を11.4ポイント下回っている。</p>	<p>・デジタル教科書や実物投影機を活用し、角度の測り方を確認したり、180度や360度を基にして計算で角度を求める問題に取り組みせたりして、角についての理解を深める。</p> <p>・教室や黒板の面積など、具体物による操作活動を取り入れ、実際の長さに関連付けて考えさせることで、面積の大きさを捉えられるように指導を工夫していく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を5.9ポイント上回った。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では、正答率が89.1%で市と県の正答率を7.7ポイント上回っている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量について分かることを説明する問題では、正答率が28.3%、無回答率も30.4%で県の無回答率を0.6ポイント上回っていて課題がある。</p>	<p>・表から2つの量の変わり方のきまりを見つける問題に多く取り組みさせ、伴って変わる2つの量の関係を捉えられるように繰り返し指導していく。</p> <p>・授業の中で、図・式・言葉で説明する活動を意図的に取り入れ、自分の考えを表現する力を育てていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を7.8ポイント上回った。</p> <p>○与えられたデータを二次元表に整理する問題では、正答率が93.5%と高く、県の平均を13.5ポイント上回っている。</p> <p>●二次元表の読み方を理解して空欄の数値を考える問題では、正答率が23.9%で無回答率も28.3%と高く課題がある。</p>	<p>・算数以外の教科でも、数値を表やグラフ等に整理する活動を意図的に取り入れ、データを読み取る力を向上させていく。</p> <p>・Aドрилやプリント類を活用し、与えられた数値を基に与えられていない数値を求める問題に多く取り組ませることで、表やグラフについての理解を深める。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区別別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	52.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	67.3	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	70.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	71.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	65.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を4.7ポイント上回った。</p> <p>○簡易検流計の針の振れ方から分かることを答える問題では、市の平均を9.2ポイント上回っている。</p> <p>●「エネルギー」を柱とする領域において、市及び県平均を上回っているが、短答式の問題では無回答率の割合がやや高かった。</p>	<p>・全体的に、基礎的な知識や技能は定着している。今後も実験したことや学習したことを自分たちの生活の中で経験する事象と関連付けて考える習慣を身に付けさせることで、理解を更に深めることができるよう、授業や日々の生活の中で指導していく。</p> <p>・ふりかえりの時間などで出来事や自分の考えを書き留める時間を取り、考えたことを文字で表せるように指導を行う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>○温められた空気の動き方を答える問題では、市の平均より23.0ポイント上回っている。また、水と空気を温めた時の体積の変化について正しい文章を選ぶ問題では、市の平均より11.2ポイント上回っていた。</p> <p>●示温インクの色の変わり方を選ぶ問題は、市の平均より13.0ポイント下回っている。</p>	<p>・水の温まり方についての学習では、めあてを明確にし、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切に指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。また、結果や考察を言語化することも丁寧に指導し、理解と定着を図っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を1.8ポイント上回った。</p> <p>○季節の変化とカエルの様子を関係付けることができるか選ぶ問題では、市の平均より5.0ポイント上回っており、無答率が0であった。</p> <p>●春や夏のころの気温や動物の様子を選ぶ問題は、市の平均より0.9ポイント下回っている。</p>	<p>・全体的に、基礎的な知識や技能は定着している。今後は、校庭や中庭にいる生き物の観察等を積極的に取り入れると共に、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図っていくようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を1.1ポイント上回った。</p> <p>○水の流れと地面の傾きについて理解しているかをみる問題では、市より20.5ポイントと大きく上回った。また、月の動き方と動く向きを理解しているかをみる問題では、市の平均を8.1ポイント上回っている。</p> <p>●水蒸気の名を答える問題は、市の平均より8.8ポイント下回った。</p>	<p>・他の領域と比べて、全体的に正答率がやや低かった。観察や実験のポイントを具体的に示すなどして活動時の視点をもたせるようにし、必要に応じて補助的な発問を加えながら、各児童が事象を正確に理解することができるようにする。また、理科の用語についても定着を図れるよう、AIDリル等を活用し繰り返し問題に取り組ませていく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は自分のためになっている」の肯定的回答割合は93.8%、「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答割合は91.7%で、9割を超える児童が、学習をすることの意味や大切さを理解していることが分かる。今後も、将来の仕事や夢と結びつけながら学習への意欲を高めていけるよう、授業や活動を工夫していきたい。

○●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答割合は85.4%で、県の平均を3.8ポイント上回っており、学習の楽しさや面白さを感じている児童が多いたることが分かる。しかしその一方で、「勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答割合は、市の平均を8ポイント～11ポイント程度下回っている。また、「むずかしい問題にであつと、よりやる気がでる」の肯定的回答割合も39.6%で、市の平均を13.3ポイント下回っている。各教科の授業や活動の中で、探究的、協働的学習を意図的に取り入れながら、児童が自分の力で学びを広げたり、深めたりすることの楽しさや面白さを実感し、いろいろな学習や課題に意欲をもって取り組む力を育てたい。

○●家庭での学習については、「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答割合が95.9%と高く、宿題に取り組む姿勢がよく身に付いていることが分かる。しかし、「家で学校の授業の復習をしている」が54.2%、「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」が43.8%と低く、市の平均を大きく下回っている。宿題にしっかり取り組むことを基本としながらも、自主学習への取り組みを奨励し、高学年として、自分の学習状況や理解度を自覚し、さらに学習内容の定着を図れるような方を指導することで、一人一人の学力を高めていきたい。

○「自分は家族の大切な一員だと思う。」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答割合は91.7%と高い割合である。児童の多くは、励ましが日常的に行われる温かい家庭の中で生まれていることが分かる。

○「人と話すことは楽しい」の肯定的回答割合は97%で、市や県の平均を3ポイント程度上回っている。周囲とのコミュニケーションを活発に交わしながら、明るく生活する態度を、今後も大切に育てたい。

●「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」が87.5%、「自分には良いところがあると思う」が70.8%「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」が58.4%「自分の行動や発言に自信をもっている」が52.1%の児童が肯定的回答をしているが、いずれも市や県の平均を約5ポイント～14ポイント下回っており、児童の自己肯定感の低さが伺われる。今後、引き続き、様々な場面で認め励ます声掛けをしたり、一人一人が活躍する場を設定したりするなど、児童の自己肯定感を高める指導を継続して行っていく。

●「だれに対しても、思いやりの心をもってせしている」が81.3%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」が83.3%でそれぞれ肯定的回答割合が、市と県の平均を下回っている。日常生活、道徳、学級活動を通して、思いやりのある温かい心をもって、周囲のために自分の力を発揮する大切さと喜びを実感させる機会を多くもたせたい。

宇都宮市立御幸が原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びで思考力・表現力を育てる授業作り	課題意識が高まる教材と問題との出会い、発問の工夫（導入の重視） 活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度を育成	「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に肯定的回答をした児童の割合は、4.5年生とともに、85%以上で、市や県の平均を上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と答えた4年生の児童は、市や県の平均を上回っていた。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 分かりやすい板書とノート指導の工夫 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	基礎的な知識技能に関する問題、活用力を問う問題ともに正答率が市や県を上回るものもあったが、無回答率が高い問題もあり、教科や個人差が大きい。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発	「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答割合は、4年が92.9%、5年生が95.9%と高かったが、「家で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」と答えた児童の割合は、市や県より下回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述問題についての正答率が低く、自分の考えを、表現する力に課題がみられる。 自分の考えを文章に書くことに、苦手意識をもっている。	問題や文章の意図を手掛かりに、自分の考えをもち、それを分かりやすく表現する力の育成	・自己肯定感を意識した授業を展開するとともに、多様な学習形態による友達との話し合いで、自分の考えをもち相手に伝える活動を多く経験させることで、自信をもって自分の考えを相手に伝えられるようにする。 ・各教科において、学習のまとめや振り返りの活動を充実させ、自分の考えを書いて表現する機会を多く設定する。